

20041

冠動脈周囲炎と思われる症例の血管内画像内画像所見

不安定狭心症の76歳女性。CAGにて高位側壁枝(HL)2本(HL-1、HL-2)近位部に99%狭窄を認めた(血管径2mm)。IVUS上2病変ともMLDに表在性石灰化を認めMLD含む数mmが直径5mm以上に膨大。狭窄のないLCX、LAD近位部にも同様の病変を認めた。Gray scaleではほぼ低エコーだが層状に高エコーと混在する部分も認めた。iMAPではFibroticが主だが外側でLipidic、Necroticの部分が混在(図1)。膨大部は外弾性板との境界が不明瞭だが一部境界は存在したため、血栓化瘤でなく動脈周囲構造物と判断した。OCT上狭窄部は均一な線維性肥厚と石灰化を認め膨大部の評価は困難。両狭窄ともScore flex 2.0mmにてバルーン拡張した。冠動脈CTでは冠動脈周囲の軟部濃度構造でありRCAにも存在。IgG4値が高値でIgG4関連冠動脈周囲炎を疑った。生検未施行で確定診断には至らないが冠動脈周囲炎のIVUS、OCT所見に関する報告は稀である。

